

本年の2月24日(金)に行われた当会の「第17回研究・改善発表大会」で研究発表した報告書をTrim誌用
に書き直し、掲載しています。

眼科検診のさらなる向上をめざして



医学協会における視野検査の成績と 3D眼底検査(OCT)の試み

当会では、人間ドックのオプション検査として、視野検査(料金2,160円税込)をプラーカ健康増進センター・新潟健康増進センター・岩室健康増進センター・岩室成人病検診センター・佐渡検診センターの5施設で実施し、緑内障の早期発見に努めています。

プラーカ健康増進センター・眼科検診研究グループリーダー **渡邊由加里**

はじめに

日本人の失明原因の1位は緑内障で、40歳以上の20人に1人が緑内障とも言われています。緑内障とは、何らかの原因で視神経が障害され、図1のように視野(見える範囲)が狭くなっていく病気です。

両目で見ているので脳で補正されて気づかず、また、ゆっくり少しずつ狭くなっていくため、自覚症状が出にくいのが特徴です。「コップを倒してしまう」「すぐ近くに落としたものがなかなか見つからない」「柵や壁にぶつかる」などのうっかりミスが、実は視野が欠けていて見えていない部分があるための可能性もあるそうです。

視野が狭くなる原因のひとつが眼圧の上昇で、ドックの検査項目に含まれていますが、眼圧が正常の正常眼圧緑内障が緑内障の7割を占めていることがわかっています。眼底検査でも判定困難な場合もあり、緑内障を早期発見するためには、視野異常を検査する緑内障予防検査(視野スクリーニング検査)が大変役に立ちます。

知っておきたい視野の欠け方

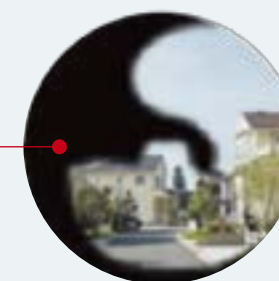
末期の写真のように欠けている部分があっても、脳で補正され、全てが見えているかのように感じて気づかない事が多いです。



正常



初期



末期



見えているつもり
が、実は…??

この部分に人や車があっても見えていないため、
気が付くのが遅くなる危険があります。

この視野スクリーニング検査が平成25年にプラーカ健康増進センターにオプション検査として導入され、翌年には新潟健康増進センター、岩室健康増進センター、岩室成人病検診センターに増設され、さらに、平成29年9月に佐渡検診センターにも設置されました。平成28年12月現在4,225名の方に受診していただいています。その検査実績をご紹介します。

視野スクリーニング検査の検査方法

検査は片眼ずつ行います。機械の中を覗き、画面中央にある目印を見続けます。

検査がスタートすると、縞模様の四角があちこちランダムに現れるので、「見えたと感じたら手元のボタンを押します。同じ所に何回か繰り返して出現するので、リラックスして行っていただきます。片眼30秒程度と短時間で検査できます。

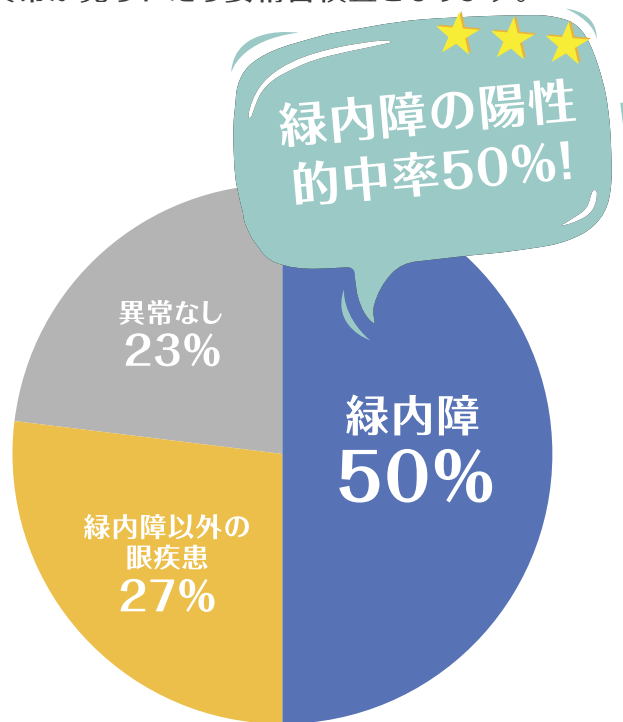
異常があった場合は再検査し、同じ部位に異常が見られたら要精密検査となります。

検査実績

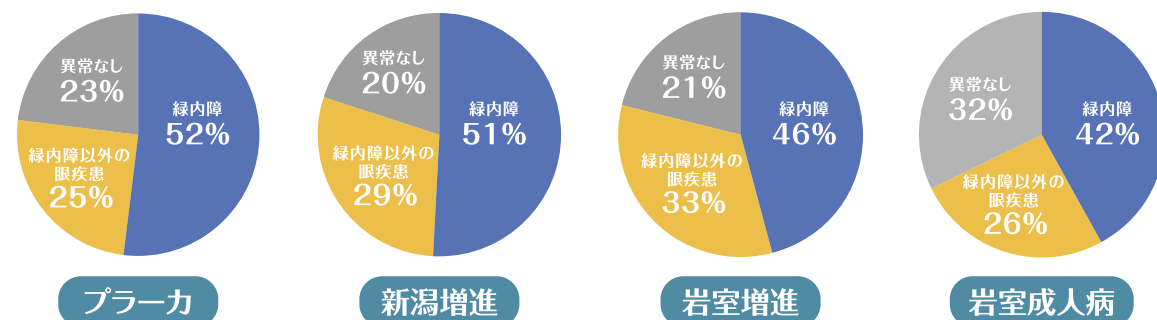
平成27年度までの受診者の中で精密検査が必要とされた方は、350名でした。その内訳は、緑内障が131名と最も多く、緑内障以外の眼疾患も72名発見されています。

また、異常なしが62名、すでに治療中などで紹介状を希望しない方が33名、返信なしが52名でした。

眼科受診された264名の結果をまとめると、緑内障が50%、緑内障以外の眼疾患27%と多くの眼疾患が発見されています。

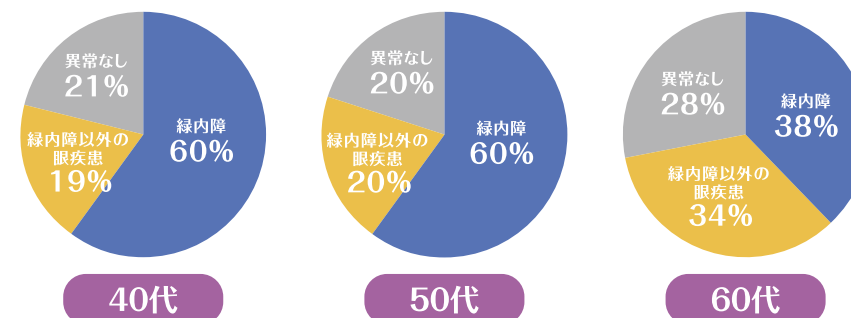


センター別比較(実施4施設)



センター別に比較すると、全センターとも緑内障が最も多く発見され、プラーカでは52%と高率で発見されています。

年代別比較



よくぶつかる!
どこに落としちゃったか?
見つからない!
コップをひっくり返してばかり。

年齢別に比較すると、40代・50代では緑内障が60%と多いのですが、60代は緑内障以外の眼疾患の割合が非常に高くなっています。視野スクリーニング検査の受診者はプラーカでは40代・50代が多く、他のセンターは50代・60代が多かったため、プラーカの緑内障の割合が高かったのはこのためと思われます。

緑内障131名の概要

緑内障131名の内訳は、男性76名、女性55名、平均年齢56.0歳で、ドックを受診した時の眼圧は全員正常、眼底異常者26名でした。

正常眼圧緑内障が72名と最も多く、55%でした。

緑内障(疑い含)	22名
正常眼圧緑内障(疑い含)	72名
開放隅角緑内障(疑い含)	17名
原発開放隅角緑内障	2名
視神経乳頭陥凹拡大	20名

複数の診断を受けた方2名含む

緑内障以外の眼疾患72名の概要

緑内障以外の眼疾患72名の内訳は、男性36名、女性36名、平均年齢60.5歳、ドックを受診した時の眼圧は全員正常、眼底異常者は8名でした。

網膜の異常が27名と最も多く38%、白内障も21名発見されています。

網膜の異常	27名
白内障	21名
視神経の異常	5名
その他	26名

複数の診断を受けた方2名含む

視野検査導入以降の4施設の対象ドック受診者は142,643名で、視野検査受診者は4,225名、視野検査受診率は3%でした。

OCT検査の紹介

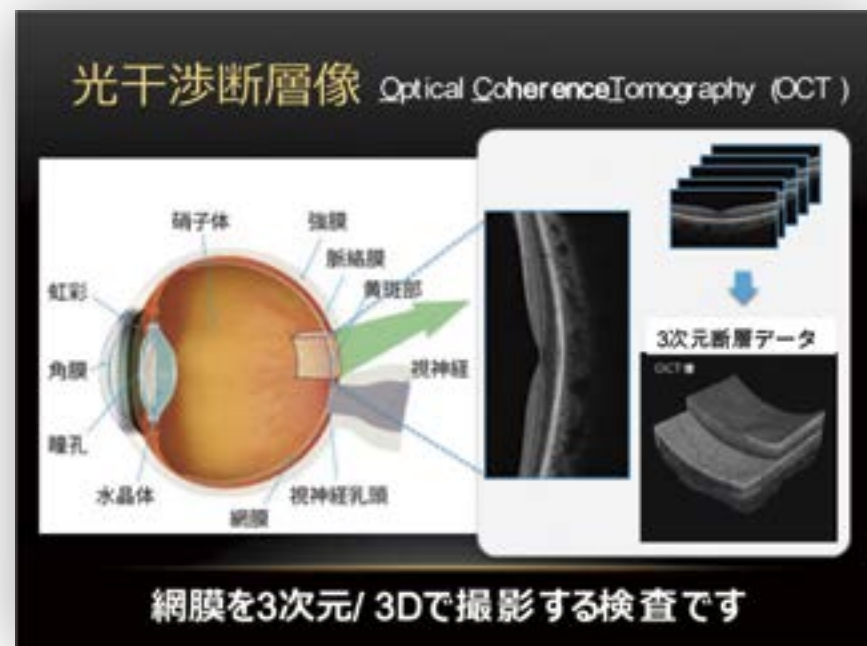
今回、検診用に開発された眼底を立体的に撮影するOCT検査の試用をプラーカで経験したので報告します。

OCT検査は、光の干渉現象を利用して、網膜の断層構造を知ることができ、緑内障や黄斑疾患などの早期発見が可能となります。

片眼約2.5秒の高速スキャンで撮影します。

眼底写真では判断しにくい疾患も、OCT検査で診断できます。加齢黄斑変性では網膜に浮腫などの異常が見られます。

3次元眼底像
撮影装置
3D OCTです!



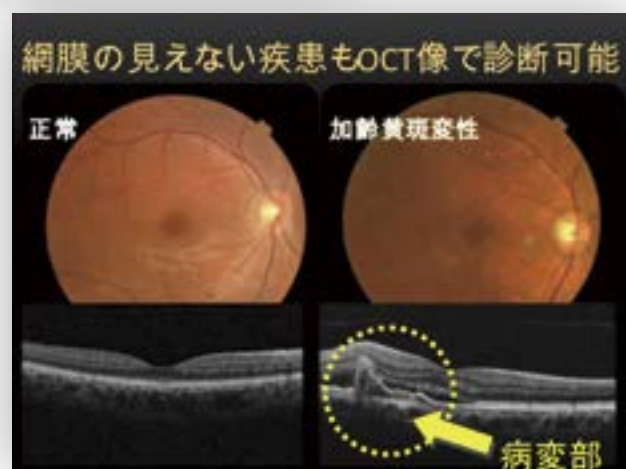
OCTレポートでは網膜各層の厚みをカラーで示します。薄い部分は赤く表示されます。

また、網膜各層の正常眼データベースと比較して、同年齢より薄い部分を赤く表示します。

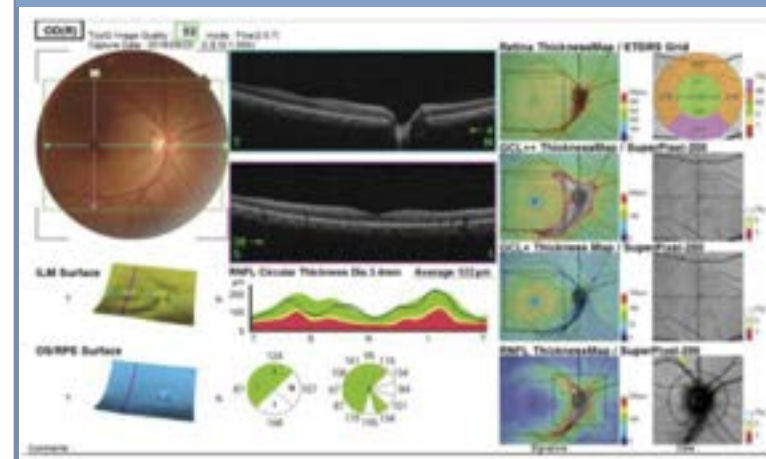
3DOCTは、診断の困難な眼底写真の判定を補完するために有用です。

プラーカ健康増進センターでの試用期間中にも、要請検者が発見されました。

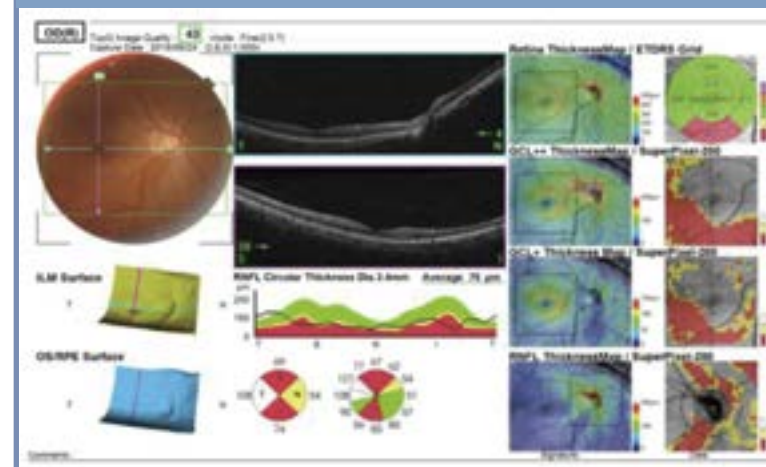
早期発見が大事!!



OCTレポート(正常)



OCTレポート(有所見)



当会の視野スクリーニング検査は、正常眼圧緑内障をはじめ、多くの眼疾患の早期発見に寄与していることが検証されました。また、OCT検査は眼底写真の判定を補完するために有用であり、眼科検診のさらなる充実が期待できます。

一度障害された視神経を元に戻す方法はなく、病気の進行をくい止めることが目標となります。したがって、できるだけ早期に発見し、治療を開始することが大切です。

大切な目の健康を守るために、緑内障予防検査(視野スクリーニング検査)を多くの方に受けていただけたらと思っています。

ぜひ、当会で視野検査をご受診ください!

日本の緑内障の推定患者数は、400万人!!40歳以上の20人に1人、70歳以上の10人に1人が緑内障です。しかし、治療を受けている人はわずか1割。緑内障患者の9割は、未発見のまま放置されているのが現状です。目の生活習慣病といわれる緑内障は、視野が狭くなるペースがとてもゆっくりなため、初期の段階では、病気に気づく人はほとんどいません。知らないうちに視野が欠け、日常生活に支障をきたします。かけがえのない自分の目を守るために、ドック受診の際は、ぜひ、視野検査もご受診くださるようお勧めします。